

！取組のポイント

若者やクリエイターなど、普段はなかなか商店街との関わりがない人達が集まって企画や戦略を立案、効果的な事業展開に貢献。

取組の背景

空き店舗の増加をチャンスに

ゆりの木通り商店街では、2006年当時、67店舗中メンズセレクトショップが22店舗ある反面、飲食店は3店舗のみという構成ながら、それなりの賑わいを見せていた。2009年頃から中心市街地の空洞化が進み、空き店舗が17ヶ所にまで増加したが、一方で、大型店では扱わないようなこだわりの品物を扱う物販店は残った。

空き店舗があることを逆手にとって、アーティストや建築家をはじめ、NPO団体や大学関係者・学生に場を提供していくうちに、外部の人たちと商店街の若手店主が話し合い、イベントを実施していくようになった。こうした動きが顕在化する背景として、商店街に彼らの活動を受け入れる空気があったことが大きく寄与している。

空き店舗をギャラリーにしたカギヤハウス



取組の内容

ゆりの木通りらしさを持つ店の誘致

多様な人材が関与することに対する下地ができていたゆりの木通り商店街では、2013年、空き店舗をなくすため、店主をはじめとして不動産業者や銀行、商店街活動に関わる若者など、多様な人材が集まり、こだわりの商品を扱う店が健在という現状を活かして、物販店の誘致をする方針のもと活動を始めた。

不動産業者や金融機関、店主が「誘致するのは物販店」という共通認識を持ち、物販での創業希望者に対して各事業者が持つ情報を提供・紹介することで、空き店舗に物販店を誘致する体制を構築している。

例えば、商店街の女性陣が取り仕切る手作り品を商店街の歩道で販売する「ゆりの木通り手作り品バザール」では、商店街内店舗と手作り品を販売する参加店舗、来街者との交流を通じて、専門店の持つ“やや敷居の高い”特性を維持しつつ、店主の個性を認知してもらう機会としている。さらに、専門学校などの学生ボランティアが当日の運営業務を担うなど、商店街の枠に収まらない活動にもつながっている。

このように多様な人材が集まる背景には、商店街のセミナールーム兼交流スペースである「黒板とキッチン」の存在が挙げられる。普段は誰でも自由に使うことができるこの空間には、クリエイターやまちづくりに関わる若者が多数訪れ、新しいアイデアや人を結びつける場となり、様々な企画やイベントが生まれている。

ゆりの木通り手作り品バザールの様子



取組の成果

物販店などの誘致に成功

商店街では、2013年から2015年までの3年間に33軒の新規出店があった。その内4軒は、浜松市の補助を活用した。

出店を誘致するだけでなく、出店後のフォローとして、店主の横のつながりを作るための「ネイバースデイ」(顔合わせ・情報交換を目的とした朝食会)を行い、さらにそこから商店街活動への積極的な関わりを持ってもらうなど、安易な撤退にはつながらないようにするための様々な事業を実施している。

浜松市が継続的に実施している中心市街地の歩行者通行量調査では、ゆりの木通り沿いの歩行者は、現在、20年ほど前と比べ25%増、危機に直面しつつあった2005年や2009年比でほぼ2倍に増加している。歩行者通行量は指標のひとつに過ぎないとはいえ、ゆりの木通りの南北の歩行者通行量は半減しており、メインストリートの鍛冶町通りをはじめ、主要商店街では軒並み(2004年比で)半減している中、独自の動きとなっている。

また、活動を担うクリエイティブな人材を受け入れてきたことで、さらに多くのプロジェクト主体の参入が起こってきた。例えば、「パーククライム」「ナイトブティック」「海外からの訪問客向けガイドツアー」「スケートボードイベント」「似顔絵看板プロジェクト」など、商店街とは今まで無縁だった人たちが、ゆりの木通りを活動の「場」として、事業を起こし、誘客につなげてくれている。

実施体制

3つの商店会の連合体であるゆりの木通り商店街では、「手作り品バザール」などのイベントに関しては、実行委員会を組織して実施している。学生ボランティアの導入についても、実行委員会として行った。立ち上げ当初は浜松市の補助を利用したが、その後は商店街独自事業として自主運営をするまでに成長している。

また、一部のイベントでは、一つの商店街の事業を他の商店街が支援する場合もある。

空き店舗対策は、連合体であるゆりの木通り商店街にて実施したが、改めて実行委員会を作ることにはせず、むしろ業種を越えた様々な人材の援助を得て、若者・よそもの視点を取り入れて取り組んでいる。

キーパーソンからのコメント

田町東部繁栄会
(ゆりの木通り商店街)
会長 鈴木 基生



多様性を受け入れる空気があるまち

少しずつではありますが、商店街が成果を挙げることができているのは、ゆりの木通りの人々が多様性を寛容に受け入れ続けてきたことによるものです。

また、ネイバースデイ(顔合わせ・情報交換を目的とした朝食会)を開催し、新規出店者のみならず、既存店舗同士の交流の機会を作ることにより、業種の垣根を超えて互いを良く知り、助け合う土壌づくりをしています。

新たな取組に向けて

ゆりの木通り商店街には、専門性とオリジナリティを持つお店や人が集まっていますが、その魅力がお客様にはまだ十分に伝わっていません。

今後は、単なる商品の販売を越えた、商店街とお客様との関係を、これまで以上に築き、もっと多くの人にこんなに面白い商店街があるということを知ってもらいたいと思います。

そして、来街者が楽しく歩けるまち、また、ここを舞台に何か面白いことができると思えるようなまちになるように、活動を進めていきたいと思っています。

基本データ

所在地	静岡県浜松市中区田町、神明町
人口	約24万人(浜松市中区)
電話/FAX	090-1092-0634/053-452-3845 (田町東部繁栄会)
関連URL	http://yurinoki-st.com
会員数	92名
店舗数	86店舗(買回り品小売店47、最寄品小売店3、飲食店20、サービス店7、その他9)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	学生・若者、会社員、高齢者

商店街概要

ゆりの木通り商店街は、事業協同組合浜松ショッピングセンター、田町東部繁栄会、神明町繁栄会の3つの商店街から構成された全長約500mの商店街である。中心市街地の北に位置し、JR浜松駅から徒歩約10分であるものの、当商店街の調査(サンプル数515、実施2016年1月)では、市民の57%はまちなかと認識していない現状がある。東海道筋であることから、江戸・明治創業の店舗が十数店舗存在する一方で、近年はメンズセレクトショップなどの店舗も多数出店し、伝統と新しさが共存している。また、付近には、専門学校や予備校、高層マンションが増加しており、新たな市場開拓や需要の創出が見込まれる。